裏切リノ兄弟

紅葉or紅蓮

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
裏切リノ兄弟

【Ｎコード】
Ｎ１７９８Ｕ

【作者名】
紅葉ｏｒ紅蓮

【あらすじ】
白髪の少年アレン・ウォーカーの内に潜む１４番目のノア――『ネア』。彼は何故、どうして家族を裏切り、千年伯爵になろうとしたのか…『１４番目』の秘密が今明かされる――

（前書き）

はじめまして、そしてこんにちは。紅葉ｏｒ紅蓮と申します。
ハイ。どうしてもＤ灰のネアのことが気になるので、もう自分で作っちゃいました。
１４番目の謎を、作者のこの薄っぺらい脳をフル回転させ、書いてみました。（あ、またこんがらがった）

おっともうひとつ言い忘れていました。ネタばれあります。こういうのが苦手なひとは直ぐに右上の「閉じる」ボタンを押してくださいね。きっと読んだあと後悔しますよ（＾－＾；；）

それでは『裏切リノ兄弟』です。

どうぞ！！

外は雨。

教団内(なか)はそれぞれが仕事に手や足、とにかく体を休むことなく動かしている。

そんななか、任務から帰ってきたエクソシスト組がそこを通りかかった。

「お、お帰り、アレンたち」

彼らを見るなりそういったのは科学班第一班班長であるリーバー・ウェンハムである。

エクソシストの一人であるアレン・ウォーカー、リナリー・リーはそんなリーバーに「ただいま」と返し、とても酷い隈が溜まっている彼の身を案じた。

「…大丈夫ですか、リーバーさん?」

「あーもう慣れたもんだ。どっかの室長も今は真面目に働いてくれてるしな。」

「でも無理しないでね…」

「俺らの心配より、お前らは自分の身を案じてろ。またいつ任務が

あるかわからねえんだから」

そういいリーバーはアレンの背を軽くポンと押すと、また部屋の奥に消えていった。

「じゃあ報告書は私が出しておくから、みんなは先に休んでて」

リナリーはそう言って走っていく。それを見送りながら赤毛の青年、ラビは尋ねる

「ユウとアレンはこの後どうすんの？俺は飯食いに行くけど…」

「ファーストネームで呼ぶんじゃねえよ馬鹿ウサギ。刻むぞ」

黒髪の青年、神田ユウは睨みをきかせて言う。それにラビは「相変わらず怖ぇ～」と体を振るわせた。

「僕は…ちょっと疲れたので先に休んでますね」

「え、アレン飯食いにいかねえの？珍しいさ」

「そりゃ行きますけど…」

一泊おいてアレンは弱弱しく微笑んだ。

「今は一人になりたいんです」

「ウォーカー」

前を歩くアレンに声をかけられたアレンが振り向くと、そこには自身の監視を命令された中央庁特別監査官、ハワード・リンクがいた。彼は無表情のままアレンに問うた。

「『一人になりたい』のは何故です？」

アレンはそれに切なげに目を細め、つぶやく様に、言った。

「疲れたから休みたいっていうのも勿論ありますよ。でも――…今日は一人で考えていたいんです」

「考える？」

「ハイ」

――１４番目のことについて。

それを聞いたリンクは微かに目を丸くした。

――――――――――――――――――――

自室に入り込むなりアレンはベットに倒れた。

それに文句を言うリンクに「何でもいいからケーキ作ってくださいよ」と我侭をいい、作ってこないと彼が動かないということをよく知っているリンクはため息をつきどこかに消えた。

アレンはわくわくと心を躍らせながらリンクのケーキを待つ。

が、突然訪れた睡魔に負け、アレンは眠りに落ちた。

そこは、もう見慣れた白い壁の住宅地。

（ここは…方舟？なんで僕方舟に…あ、これ夢か）

そう一人ごちるアレンの目に、ある光景が映った。

くせっ毛のノアが、青年（にんげん）の手を引き、何故か、同じノアと戦っている様子。

どうやら青年を逃がそうとした、もしくはともに逃げようとしたノアを殺そうとしているのだろう。

（仲間を殺そうとしているなんて…信じられない）

たとえそれが裏切り者でも。

アレンの脳裏にスーマンの姿が浮かぶ。

（…ん？裏切り者？）

もう一度目の前の戦いを見る。

（まさか…あの人間（ひと）を連れてるノア…）

そのときくせっ毛のノアが振り返った。

アレンは驚く。

それは彼が――――『欲望』のノア、ティキ・ミックにそっくりな顔をしていたからだ。

彼は連れていた青年の手を離し、叫んだ。

「マナ！！逃げろ！！」

「！！！！」

（…マナ？）

アレンの頭の中に、自身の師であるクロス・マリアンの言葉が、そしてまだ出会って間もないころの義父（マナ）の言葉がよみがえる。

『「　　」には血を分けた実の兄がいた』

『「　　」がノアを裏切り千年伯爵に殺される瞬間までずっと側にいた、ただひとりの人物…それがマナ・ウォーカーだ』

『僕、１７歳なんですよ。』

『弟をさがす旅をしてるんです』

まさか

あのくせっ毛のノア――――

「１４…番目？」

思わずアレンは呟いた。

今、マナと呼ばれた青年を守るために戦っている彼が、自分の中に潜んでいるノア――――「１４番目」なのか？

アレンが混乱している時にも、「１４番目」とノアは戦っている。するとマナが未だ逃げずにいることに気付いたのか、バッと振り返り、再び叫んだ。

「何やってる！！早く逃げろ！！」

「で、でも『ネア』…」

「１４（あそこ）番目の秘密部屋に行け！！立ち止まるな！歩き続けるんだ！！…早くッッ！！」

そう言われ、マナは走った。一度弟が心配だったのか振り向いたが、

すぐ踵を返し、

（絶対…絶対、戻ってきてね――――ネア）

そう祈り、走った。

兄が戦いの場から無事逃げ切ったことに安心したのか、「１４番目」は一瞬フッと微笑んだ。そしてもう動かない兄弟（てき）を一瞥し、その場から立ち去ろうとした。

が、

「待ってぇっ！」

「…ロード」

（ロードっ！？ロードと１４番目は面識があったのか！？）

息を切らして現れたのはアレンもよく知っている少女のノア、ロード。

またもや混乱するアレンを他所に、二人の会話は進む。

「…行っちゃうの？」

「千年公やロード達も勿論『兄弟』だ…でもロード、俺には本当の『兄弟』がいるんだよ。千年公はマナが人間であるかぎり殺そうとするだろ？だったら俺はマナを守らなくちゃいけない」

「……」

「だから…だから俺は千年公を殺す」

ロードの表情が固まる。震える声で彼に問うた。

「…死んじゃうよ？そんなことしたら」

それに彼は無言で微笑み、言った。

「ロード、さっきの事は内緒だからな？」

そういい、何処かに消えた。

それと同時に、あたりが真っ暗になった。

「……？」

アレンが首をかしげていると、大きな音がした。

勢いよくそちらに振り向くと、そこには

――「１４番目」の首を絞めている、千年伯爵がいた。

「「１４番目」…ナゼ、ナゼなのデス？ナゼこんなことヲ…」

「『何故』…？最初に言わなかった？ダカラ…
アンタを殺して
俺が千年伯爵になるんだ」
「ッ！」
動揺する伯爵を馬鹿にするように「１４番目」は笑い、言った。
「アンタはもう狂った人形…ただの破壊人形に成り果てた…だから俺が」
一旦言葉を切り、言い放つ。
「いつかアンタを殺してやる…絶対に」
「……」
伯爵は冷たくなってゆく彼の首から手を離すと、どこかへ行ってしまった。
アレンは呆然としていた。
（…「１４番目」、まさかお前も世界を…）
世界を、救おうとしているのか？
千年伯爵を殺し自分が千年伯爵になることで、『ノアの一族』を根

元から変えようとした…

殺人を止めさせようとしたのか？

そう考えていると、聞きなれた声が聞こえた。――

――

「ウォーカー！！いい加減おきなさい！！」

「んぁ、リンク…？」

瞼を開くとそこは自分のベットで、見慣れた監査官の金髪が見えた。

リンクが遠くでぶつぶつと小言（だと思われる）をアレンは未だに夢と現実の狭間を往復しているのか、ぼぉっとした様子で聞いていたが、ケーキの甘い香りがアレンを一気に覚醒の道へと導いた。

「ケーキ！！」

「Σウォーカー、聞いているんですか！？」

リンクの怒号が飛び、アレンはそれを気にせずケーキに手をつける。

渋々とリンクが入れてくれた紅茶を飲みながら、アレンはぼんやりと思った。

（そういえば…さっき見てたのなんの夢だったかな…？）

（後書き）

オ　ワ　タ　（＾ｑ＾）／

初めて短編を書きましたが、もうだめだなあ…あああ駄文しか書けないよぅ。ていうかテストまであと2日という事実。（オイ

ここまで読んでくれてありがとうございました！！

感想、コメント、リクエスト当、いつでも待ってます！

もらったらきっとＰＣの前で舞い上がります。そんで家族に変な目で見られます↑

これからも紅葉ｏｒ紅蓮をよろしくお願いします！

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1798u/

裏切リノ兄弟

2011年10月7日17時34分発行